令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

勝山市立平泉寺小学校

1「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

・地域代表

民生児童委員(1名), 学識経験者(1名) 保育園長(1名), 児童館児童厚生員(1名)

- ·保護者代表...PTA会長(1名)
- ·学校関係者...校長(1名), 教頭(1名)
- ・地域コーディネーター (1名)

(市高齢者連合会長)

(2) 協議会の内容

開催回数...3回

開催日程...6月,11月,2月 協議内容...児童の学習・生活状況について

> あいさつ運動について, スクールプランについて

学校評価について 等

(3)協議会における成果と課題

・地域の行事における協力体制が構築されている。学校行事や地域の行事をより有意義なもの とするために連携を深めていく。

2 地域と進める体験活動

(1)活動のねらい

- ・校区の池ヶ原湿原の生態調査や環境保全活動に取り組み、自分たちの取り組みの成果を広く発信する。
- ・学校で継続的に取り組んでいるフキの収穫,仕分け、販売を家族や地域の方と協力して行い、進んで活動する態度を育てる。

(2)活動の実際

①池ヶ原湿原の動植物の生態調査と環境保全活動(1~6年)

- ・池ヶ原は、校区にあり勝山ジオパークに含まれる湿原である。今年度も湿原の動植物・環境調査を実施した。5月には全校児童が観察会に出かけ、その後、学年ごとにテーマを決めて活動した。県自然保護センターとの連携を深め、探求的な学習への支援や助言をしていただいた。
- ・1・2年生は、観察して発見したものを「生き物カード」にまとめ、湿原の生き物への関心を 高めた。3年以上は、昨年度から継続して取り組んでいる池ヶ原のジオラマとその説明板を作 成した。
- ・今年度はヨシストローの作成とPR活動を始めた。昨年度、池ヶ原の環境保全活動で刈り取ったヨシを使い4年生が中心となってヨシストローを作成した。ヨシストローは、プラスチック問題の改善につながるものとしてPR活動も積極的に始めた。
- ・池ヶ原湿原での活動を広く発信することにも力を入れた。例年、保護者や地区の方が多く集まる学習発表会でその成果を発表している。今年度は、勝山市のジオパークまちづくり課との連携も深め、市のジオパーク認定にかかる審査会、市の主催する環境フェスタでの事例発表と、より多くの方々に発信する機会を得た。プレゼンテーション用のスライドに、ヨシストローやジオラマの実物も提示しながら発表を行った。これまでの継続的な取り組みとヨシストローのPRについて広く発信した。

②フキとり、フキの仕分け、販売

- ・本校に60年以上続く伝統行事である。お家の方や地域の方、高齢者連合会等、各関係機関の 方々に協力していただいている。今年は、地域の宝であるフキをより多くの方に知っていただ くため、その販売にも力を入れた。販売する場所は地域の団体が開いている2カ所の朝市であ る。校区にある、両市には、遠方からもお客様が来られる。自分たちがとったフキを朝市の商 品としてお客様に届けるにはどうしたらよいかを考えながら、高齢者連合会の方々と一緒に活 動した。フキを大きさごとに仕分けしたり束にまとめたりする中で、地域の方々からフキを大 切に扱う技や智恵を学ぶことができた。
- ・フキとりの翌日に、朝市(大門市、大渡ふれあい市場)で6年生児童がフキの販売を行った。 フキ販売のポスターやお店の方の協力のおかげで、朝早くから多くのお客様が来てくださり、 フキを完売することができた。







ストローづくり

発表の様子

フキの販売

(3)地域コーディネーターの活動概要

- ・池ヶ原湿原の生態調査,環境保全活動についての教員へのアドバイス,児童への提案,活動の際の講師および活動補助
- ・平泉寺町高齢者連合会、池ヶ原湿原保全・活用協議会との連絡調整

(4)特に工夫した事項

- ・池ヶ原湿原では経年の動植物の調査に加え、新しい活動を組み込んでいる。児童が主体的に活動できるように県の自然保護センター、ジオパークまちづくり課との連携を深め、専門家からの指導をいただいている。
- ・行事では、地域の団体、特に高齢者連合会との連絡を密にしている。教職員の負担の軽減につ なげている。

(5) 成果と課題

今年度は池ヶ原湿原の保全活動を発展させ、ヨシストローづくりに取り組んだ。多くの方々の支援のおかげで自分たちが学んだことを広く発信することができた。

伝統的な行事においては、地域の方と活動することを通して、自分たちの地域への誇りを持つ ことができている。地域に関してはさらに歴史・文化に関して学習を進めていきたい。